

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500252		
法人名	有限会社 牧瀬工業		
事業所名	グループホーム こころ		
所在地	佐賀県伊万里市二里町中里甲97		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 4年 11月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位を心掛け、日々の生活を楽しんでいただけるように余暇活動や相談援助に努めています。業務を優先しなければいけない事もありますが、関りを大切にしています。また、カンファレンスを月に一度(ケアプラン見直し期間3か月)開催していますが、ご家族の参加もありホームでの生活をご家族と共に検討する事が出来ています。要望に出来る限り答え、利用者様の行き慣れた病院等を出来る限り継続し受診しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地は広く、庭の桜でお花見をすることができたり、体操やお茶、散歩などを行うことができる。また、プランターで花を育てたり、畑で野菜を育てたりするなどの園芸や、ドライブで戸外に出る機会を設けるなど入居者の好きなことの反映に努めている。ホーム内はリビングの窓が広く廊下にも天窓があり、全体的に明るいつくりで、季節感のある飾りや入居者と作った作品の掲示など温かみのある空間となっている。職員は研修や勉強会をととして資質の向上に努めたり、医療機関など関係機関との連携をし、入居者が安心して生活できるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	国見	腰岳			国見	腰岳	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社訓「善の循環」を基に、助け合い(援助)の心を持ち日々業務しています。他に運営理念を掲げています。	玄関や事務所へ理念を掲示し、新入職員研修などの研修時に理念について話す機会を設け、職員間の共有に努めている。また、理念に則したケアとなっているか見直すなど実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で行事ごとが中止になっていますが、地域の祭事があれば参加できるように配慮しています。	はなまつりの花車や歌の披露など保育園児の訪問の機会がある。また、近隣住民との散歩時の挨拶や花の差し入れ、同町内在住の職員からの地域情報を基に清掃活動に参加するなど地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に受け入れていただける様努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常にサービスの向上は念頭に置いています。	区長や地域包括支援センター職員、家族が参加し、家族同士の交流の機会となっている。ホーム内の取り組みや地域のことなど情報や意見交換を行っており、会議で出た意見は職員間で検討し、反映に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は常に行っています。	電話や直接市所管課に出向いて不明点などを確認している。また、コミュニティケア会議に参加している系列事業所から情報を得るなど、情報収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要になった場合は、家族様に経緯と改善策を提示し必要に応じて同意書をいただくよう努めています。	現在、身体拘束をしている入居者はいない。3カ月1回の身体拘束適正化検討委員会の開催や、年2回の内部研修、年1回の外部研修をととして職員への周知と実践に努めている。また、言葉による行動制限等にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に地域・家族・ホームの交流会を開催し運営に反映させています。	面会はコロナ禍のため窓越しで行っている。面会時に入居者の状況を伝えたり、適宜電話をしたり、家族との情報共有に努めている。また、家族から出た意見は職員間で共有し反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の管理者会議と職員会議の際、必ず意見提案の機会を作っております。	会議や朝礼、日頃の会話など、全体と個別に話ができるよう配慮している。出た意見は職員間で検討し、入居者のケアに反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り働きやすい環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外での研修は出来る限り参加出来るよう努力しながら施設内でも研修会を開きスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊万里市のケア会議や他の研修等で相談しながら業務に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に楽しんだり喜び合ったりしながら、出来る作業をお願いしたりしながら支えあえる関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の気持ちや思いを代弁しながら、一緒に支えて頂けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様等との面会などを通じて関係性が途切れないよう支援しています。	コロナ禍のため、窓越し面会や電話の取次ぎ対応をしている。また、自宅周辺のドライブや手紙のやり取り、結婚式参加のための外出支援を行うなど、関係性が途切れない工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を考えながらうまく関りが出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの価値観等を把握しながら支援できるよう努めています。	自分で意向を伝えられる入居者は3分の1程で、普段の会話や入浴時に聞くようにしている。また、入居者の表情や仕草、家族からの聞き取りなどにより意向の把握に努め、できる限り反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や生活の経過をカンファレンス等を通じて把握しながら支援できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし方や健康状態等を日誌等で共有できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度のカンファレンスには担当者・管理者・ユニット長・本人様・ご家族様が参加し、利用者様にとって何が必要かを検討し家族様に提案しています。	本人と看護師や管理栄養士を含めた職員がカンファレンスに参加している。受診や往診時に主治医の意見なども含めた介護計画づくりに努めている。コロナ禍により家族と対面で話をする機会が少なくなり、電話や手紙などでの説明をしているが、家族の意見を聞く機会は十分とはいえない。	介護計画の郵送時に家族の意見を記入する用紙を同封するなど、更なる介護計画に関する家族との意見交換の機会づくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については検討に検討を重ね、スタッフ間での情報漏れがないよう努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や要望にはできる範囲で対応し、場合によっては家族様の協力を仰ぎながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全には常に努めています。豊かな暮らしかどうかは私達が判断できることではありませんが、楽しく暮らしていただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援しています。	家族による送迎など、家族の協力のもと、かかりつけ医の受診を継続している。受診前後には家族との情報交換を行ったり、必要時は直接医療機関に電話するなど必要な情報の把握と共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアに対しては対応できる方針で運営しています。ご家族と主治医との連携を強化し、ホーム内で出来る事は行い、出来ない事(医療的処置等)は往診等で協力を得ています。	コロナ禍もあり、重度化したときなどは病院への転院や他施設への転所で対応をしている。重度化する中で、家族、主治医、職員間での支援方針を検討し、入居者のケアに反映させている。また、重度化する中での家族や職員の不安に対し傾聴したり話をするなどしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	習得の為スタッフ皆努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練等年2回実施し、他災害に関しても防災マニュアルを活用し同時に行っています。地域消防団の方にも参加をお願いしまする事もあります。	年2回、夜間想定を含めて消防訓練を行い、消防団や区長が参加をしている。報告書を回覧するなど職員への周知にも努めている。また、年1回、屋内退避訓練を実施している。近隣施設との連携や非常時の物資の確保などはこれからである。	近隣施設との連携や非常時の物資の確保など、更なる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まだまだ十分とは言えませんが、スタッフ皆利用者様には敬意を持って接するよう努めています。	プライバシーに関する研修を行っている。また、言葉遣いに関することなどは虐待防止研修の他、その都度話をするようにしている。必要時は同性介助をするなど羞恥心への配慮にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人からの声が聴けて自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てを出来ているとは言えませんが、業務の遂行と利用者様の思いを大切に関わる時間双方をうまく作り出せるよう日々努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の嗜好を確認しながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLの差によって出来たり出来なかったりがありますが、利用者様の状態に応じて支援しています。	平日は系列事業所で調理し、ホームで配膳している。お盆拭きや食器拭きなど入居者と一緒に行っている。日曜日はホームで料理をするため、入居者が食べたいものを献立に反映したり、下ごしらえなどの準備を一緒にしたりと食事を楽しむことができる支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施しています。	入居者の半数はトイレで排泄しており、必要時は2人介助をするなど自立支援に努めている。また、トイレの声掛けや排泄確認はさりげなく行うなど、羞恥心への配慮にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の時間割りも業務遂行の上では大切な要素となっていますが、できる限り本人の希望に添えるよう日々努めています。	週2回、入浴している。入居者の状況により日時の変更や2人介助、同性介助など柔軟に対応している。また、ゆず湯などの季節のお風呂や入浴中の会話など、楽しむことができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については本人の意思に応じられるよう努めています。夜間不眠の方は主治医と相談をし処方薬を使用したりしながら安眠が出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理や必要な知識はスタッフ間で共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中で利用者様の要望を聞き、家族様にも協力していただきながら支援していることはしていますが、コロナの影響で実現できていないところが現状です。	コロナ禍のため外出頻度は減少したが、秋桜や紅葉、桜見学など季節毎のドライブを行っている。また、天気がいい日にはホームの庭で体操や散歩、お茶を飲むなど戸外に出る機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様と連携し、日常生活上で必要なお金は立替金としてホームの方から支払っています利用者様が高額(1000円以上)の買い物をされる時は必ずご家族の同意を確認しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻度は少ないですが支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を大切に考え、居心地が良い環境を提供できるよう常に考え努力しています。	ホーム内は季節の飾りや入居者がつくった作品の展示など季節を感じることができる。また、定期的な換気、消毒、湿度確認の他、職員の声の大きさや足音にも配慮するなど、居心地のよい共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて居心地の良い空間が提供できるように常に考え努力しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り安心できる環境を提供できるよう努力しています。	入居時に本人・家族とベッドなどの家具の配置を確認するなど住み慣れた環境を意識したり、状況により畳に布団を敷くなど安全にも配慮をしている。また、居室内に写真を飾るなど居心地よく過ごせる居室の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自立も考え安全に生活できるように努力しています。		